

## 第2回 新中間処理施設整備検討会議 (開催概要)

1 開催日時 平成29年9月29日(金) 13:30~15:45

2 開催場所 くりりんセンター 2階研修室

### 3 出席者

#### (1) 構成員

帯広市、音更町、土幌町、上土幌町、鹿追町、新得町、清水町、芽室町、中札内村、更別村、大樹町、広尾町、幕別町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、陸別町、浦幌町

#### (2) オブザーバー

北海道十勝総合振興局

#### (3) 事務局

くりりんセンター

### 4 議事概要

#### (1) 今後のごみ処理のあり方について

#### (2) 中間処理施設における処理方法について

上記二項目を一括して議題とし、事務局から資料1・2を用いて説明を行った。

#### 【主な質疑(要旨)】

・現状のくりりんセンター(ストーカ式)では補助燃料を使用しているのか。

→点検や補修で休炉した炉を立ち上げるときに補助燃料として灯油を使用しているが、炉が立ち上がると補助燃料は一切使用していない。

・シャフト炉に投入するコークスは容易に入手できるのか。また、価格的に安定したものなのか。

→入手は容易であるが、大部分は中国産が使用されており、価格変動が大きいと聞いている。

・今回の処理量の比較の試算で、全量焼却する廃プラスチックには、現在リサイクルしている分は含まないのか。

→今回は現在「燃やさないごみ」として取り扱っている廃プラスチックを全量焼却するという仮定で試算を行った。プラスチック製の容器と包装は容器包装リサイクル法において資源化を図るよう規定されている。

今後のごみ処理のあり方について、下記の項目ごとに各自治体の現時点での考え方を意見聴取した。

#### 【主な意見（要旨）】

##### <A>ごみの分別等の住民負担・収集運搬等の自治体の負担について

- ・ごみの約5割を占める生ごみを今後どうしていくかが一番の課題。
- ・分別排出についてなかなか理解してもらえない状況において、さらに分別を増やすと住民に混乱を招く。
- ・廃プラスチックと容器包装リサイクル法のプラスチック容器の分別について冊子の作成や個別説明を実施したことでかなり徹底されている。
- ・高齢化の進展により、分別自体の理解が難しくなっているなかでは、廃プラスチックを焼却しエネルギー回収するというのもひとつの選択肢ではないか。

##### <B>循環型社会の形成（生ごみや廃プラスチックの資源化など）について

- ・自治体として明確な考えは決めていないが、積極的に取り組んでいかざるを得ないので、新しいごみ処理方式においても可能な限り再資源化を図るべき。
- ・廃プラスチックは焼却しエネルギーを回収する方が、最終処分場をなるべく使わない形で現状よりは良いのではないか。

##### <C>最終処分量の削減について

- ・最終処分場の整備にあたっては、最初の段階でどれだけ地元の理解を得られるかということが一番大切だと認識している。
- ・可能な限り低減することはもちろんであるが、必要最小限の最終処分場の整備は必要。十勝管内で整備していけると思う。
- ・最終処分場は次々に整備が必要で切れ目がないことが大きな命題。二酸化炭素排出量の抑制と最終処分量は相反するため、本当に難しい。

##### <D>二酸化炭素の排出抑制について

- ・近年、北海道に台風の被害が続いているが、これは正しく地球温暖化の影響であり、二酸化炭素は抑制するべきで、今後のごみ処理における負担増はやむを得ないと認識している。
- ・二酸化炭素の排出抑制は当然だと考えるが、特別交付税がどんどん減らされているなか、小規模自治体にとって費用負担の増加は厳しい。
- ・二酸化炭素削減のための自治体負担が多少増加することはやむを得ないと考えるが、財政負担には限界がある。
- ・小さなことからコツコツとやればいくらかは削減出来ると考える。今後のごみ処理の検討において絶対にベストはないと思うので、どこかで妥協し、最小限度に食い止める方式のごみ処理が出来たら良いと考えている。

### < E > 自治体の財政負担について

- ・プラントの建設費、ランニングコストと合わせて収集コストも考えることが必要。
- ・経費の負担については可能な限り平準化してほしい。
- ・新しい施設を整備し運営することで財政負担が増えることが考えられるが、運用でその部分を抑えるような工夫が必要だと考える。
- ・費用対効果を念頭に置いて、ごみ処理を検討してほしい。

### (3) 建設候補地の選定について

事務局から下記のとおり説明を行い、了承を得た。

- ・前回会議で了承いただいたとおり、帯広市・音更町・芽室町・幕別町の1市3町に建設候補地を依頼したところ、帯広市から提案いただいた。
- ・帯広市からの提案と、組合所有地を建設候補地として、基本要素の比較を行い、次年度から着手する基本構想策定作業において、建設候補地を決定したい。